

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究

分担研究報告書（平成 30 年度）

Web を主体とした患者・家族への情報発信と一般医の啓発・教育活動

研究協力者 長堀 正和 東京医科歯科大学（医学部附属病院）

臨床試験管理センター 准教授

研究要旨：研究要旨：本研究班ウェブページに、IBDの正確で最新の知識を、患者・家族向けに公開し、加えて、IBD診療の均てん化と患者QOLの向上を目的に、全国の一般医に対して、IBDの疫学、診断、治療、予後に関する冊子「一目でわかるIBD」を公開した。また、一般消化器医がIBDの実践的知識を身につけるために公開しているe-learningに新規問題を追加した。本年度は、IBD患者の就労に関する冊子「炎症性腸疾患患者さんの就労についてQ&A」を作成、Web上に公開した。今後はこれらのコンテンツの充実はもちろん、患者団体や関連学会との連携を強め、本研究班の枠を超えて、本情報を告知および活用を推進していく必要があると思われた。

共同研究者

鈴木康夫（東邦大学医療センター佐倉病院 内科学講座）

竹内 健（東邦大学医療センター佐倉病院 内科学講座）

藤谷幹浩（旭川医科大学内科学講座消化器血液腫瘍制御内科学分野）

中村志郎（兵庫医科大学内科学下部消化管科）

穂刈量太（防衛医科大学校内科）

藤井久男（平和会吉田病院消化器内視鏡・IBDセンター）

岡崎和一（関西医科大学内科学第三講座）

二見喜太郎（福岡大学筑紫病院外科）

安藤 朗（滋賀医科大学消化器内科）

馬場重樹（滋賀医科大学消化器内科）

平井郁仁（福岡大学筑紫病院消化器内科）

江崎幹宏（佐賀大学医学部附属病院消化器内科）

渡辺憲治（兵庫医科大学腸管病態解析学）

木村英明（横浜市立大学附属市民総合医療センター炎症性腸疾患（IBD）センター）

畑 啓介（東京大学医学部腫瘍外科）

加藤 順（三井記念病院内視鏡部）

長沼 誠（慶應義塾大学医学部消化器内科）

横山 薫（北里大学病院消化器内科）

辻川知之（国立病院機構東近江総合医療センター消化器内科）

新井勝大（国立成育医療研究センター消化器科）

A. 研究目的

炎症性腸疾患（IBD）に関する正確な知識を、全国の患者およびその家族に啓発する。加えて、IBDの正確で最新の知識を、全国の一般医に啓発・教育することで、全国のIBD患者が標準的で良質な診療を受けられることを目的とする。

B. 研究方法

IBDの疫学、診断、治療、予後に関する冊子「一目でわかるIBD」を公開し、申し込み者には、データの送付を行った。昨年度、一般消化器医がIBD診療の実践的知識を身につける目的に公開したe-learningについて、内容の見直しを行った。また、年齢層や障害の程度が異なる他の難病患者とは別の、炎症性腸疾患患者が抱える就労に関する問題点を検討し、有用で正確な情報を効率的に伝達することを検討した。

(倫理面への配慮)

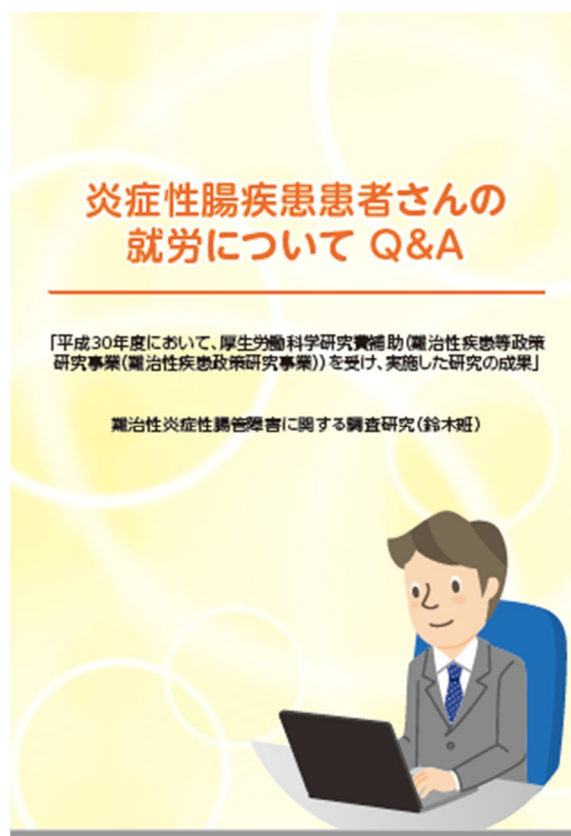
特になし

C. 研究結果

昨年度に Web 上にて公開した IBD の疫学、診断、治療、予後に関する冊子「一目でわかる IBD」は、本年度も多く閲覧が確認されたが、その活用理由としては、患者説明・診療補助(薬剤師、歯科医師を含む)、自己学習、研究開発など(製薬企業、出版社、人材派遣会社、広告代理店、医療データ会社など)、講義・講演・勉強会、難病指定医養成研修会などが認められた。申し込みに応じて、データの送付も行った。

昨年度、公開した、一般消化器医対象の e-learning では、内容の検討を行い、便中カルプロテクチン、新薬、妊娠中や悪性主要合併症例に対する治療など、実践的な内容の問題を新たに 13 問追加した。

「患者さん・家族情報」のページに、新たに、就労に関する冊子「炎症性腸疾患患者さんの就労について Q&A」を作成、公開した。本冊子は、「これから就労する方のために」「就労中の方に」「その他」の 3 部構成、15 問の Q&A 形式の記載で構成されている。「問い」の選択およびその回答については、医師の視点とは異なる、難病相談支援センター、都道府県労働局、ハローワーク、就労コンサルタントなどからのアドバイスが有用であった。



D. 考察

「一目で分かる IBD」は当初の予想を超えて広く活用されていることが分かり、来年度は新規薬剤等の追加など、内容のアップデートが必要と思われた。また、e-learning については、学習の動機付けが必要と思われる。就労に関する冊子「炎症性腸疾患患者さんの就労について Q&A」に関しては、紙媒体として配布することには費用の問題があり、今後、公開されている Web ページの患者および家族での告知の工夫が必要と思われた。

E. 結論

患者団体や関連学会との連携を強め、本研究班の枠を超えて、本研究成果を告知および活用を推進していく必要があると思われた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Iwamoto F, Matsuoka K, Motobayashi M, Takenaka K, Kuno T, Tanaka K, Tsukui Y, Kobayashi S, Yoshida T, Fujii T, Saito E, Yamaguchi T, **Nagahori M**, Sato T, Ohtsuka K, Enomoto N, Watanabe M Prediction of disease activity of Crohn's disease through fecal calprotectin evaluated by balloon-assisted endoscopy. J Gastroenterol Hepatol 33(12) 1984-1989 2018
2. Hisamatsu T, Kunisaki R, Nakamura S, Tsujikawa T, Hirai F, Nakase H, Watanabe K, Yokoyama K, **Nagahori M**, Kanai T, Naganuma M, Michimae H, Andoh A, Yamada A, Yokoyama T, Kamata N, Tanaka S, Suzuki Y, Hibi T, Watanabe M; CERISIER Trial group. Effect of elemental diet combined with infliximab dose escalation in patients with Crohn's disease with loss of response to infliximab: CERISIER trial. Intest Res 16(3) 494-498 2018
3. Kobayashi T, Hisamatsu T, Suzuki Y, Ogata H, Andoh A, Araki T, Hokari R, Iijima H, Ikeuchi H, Ishiguro Y, Kato S, Kunisaki R, Matsumoto T, Motoya S, **Nagahori M**, Nakamura S, Nakase H, Tsujikawa T, Sasaki M, Yokoyama K, Yoshimura N, Watanabe K, Katafuchi M, Watanabe M, Hibi T Predicting outcomes to optimize disease management in inflammatory bowel disease in Japan: their differences and similarities to Western countries. Intest Res 16 (2) 168-177 2018

4. Watanabe K, Matsumoto T, Hisamatsu T, Nakase H, Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M1, **Nagahori M**, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T; DIAMOND study group. Clinical and Pharmacokinetic Factors Associated With Adalimumab-Induced Mucosa l Healing in Patients With Crohn's Disease. Clin Gastroenterol Hepatol 16(4) 542-549 2018

2. 学会発表

1. Ohtsuka K, Takenaka K, Suzuki K, Fujii T, **Nagahori M**, Matsuoka K, Saito E, Katsukura N, Fukuda M, Araki A, Watanabe M Usefulness of single-balloon enteroscopy: from a single center 990 experiences. DDW2018 Washington D.C (USA) 2018年6月3日
2. Saito E, Suzuki K, Shimizu H, Motobayashi M, Takenaka K, Onizawa M, Fujii T, **Nagahori M**, Ohtsuka K, Watanabe M The clinical efficacy of switching cases between Infliximab(IFX) and Adalimumab(ADA) in patients with ulcerative colitis. AOCC2018 Shanghai 2018年6月22日
3. Fujii T, Kitazume Y, Takenaka K, Suzuki K, Motobayashi M, Saito E, **Nagahori M**, Ohtsuka K, Watanabe M Simplified MR enterocolonography Classification of Crohn's Disease Based on Enteroscopic Findings. AOCC2018 Shanghai 2018年6月22日
4. Takenaka K, Ohtsuka K, Fujii T, **Nagahori**

- M, Saito E, Motobayashi M, Suzuki K, Watanabe M Small bowel mucosal healing of Crohn's disease treated with anti-TNF antibodies. FALK シンポジウム京都ホテルオークラ (京都府京都市) 2018 年 9 月 7 日
5. Saito E, Matsuoka K, Fujii T, **Nagahori M**, Ohtsuka K, Watanabe M On the clinical course of anti-TNF agent in ulcerative colitis (UC) IBD and Liver: East Meets West 京都ホテルオークラ (京都府京都市) 2018 年 9 月 7 日
6. 齋藤詠子、**長堀正和**、大塚和朗、渡辺 守 【ワークショップ:炎症性大腸疾患診療における内視鏡の役割 - 感染症から IBD まで】免疫不全症に伴う大腸炎の 3 例 第 106 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 シェーンバッハ・サボー (東京都千代田区) 2018 年 6 月 16 日
7. 川内結加里、秋山慎太郎、福田将義、鈴木康平、竹中健人、鬼澤道夫、北畑富貴子、村川美也子、新田沙由梨、藤井俊光、岡田英理子、中川美奈、柿沼 晴、**長堀正和**、大塚和朗、渡辺 守 回腸瘻から大量出血を来した小腸型クローン病の 1 例 日本消化器病学会関東支部第 350 回例会 海運クラブ(東京都千代田区) 2018 年 7 月 14 日
8. 伊藤 晃、伊東詩織、渡部太郎、小林正典、福田将義、齋藤詠子、藤井俊光、東 正新、岡本隆一、土屋輝一郎、**長堀正和**、大塚和朗、朝比奈靖浩、渡辺 守 潰瘍性大腸炎の経過中に原発性硬化性胆管炎を併発した一例 日本消化器病学会関東支部第 351 回例会 海運クラブ (東京都千代田区) 2018 年 9 月 22 日
9. 齋藤詠子、秋山慎太郎、鈴木康平、本林麻衣子、竹中健人、清水寛路、鬼澤道夫、藤井俊光、**長堀正和**、大塚和朗、渡辺 守 クローン病における抗 TNF- 抗体二次無効時のウステキヌマブの治療成績について 第 9 回 日本炎症性腸疾患学会学術集会 メルパルク京都 (京都府京都市) 2018 年 11 月 22 日
10. 山田倫子、秋山慎太郎、堀田伸勝、福田将義、齋藤詠子、藤井俊光、岡田英理子、大島 茂、井津井康浩、中川美奈、岡本隆一、土屋輝一郎、柿沼 晴、東 正新、永石宇司、中村哲也、**長堀正和**、大塚和朗、朝比奈靖浩、渡辺 守 難治性潰瘍性大腸炎経過中に血球貪食症候群を契機に判明した T 細胞性リンパ腫の一例 日本消化器病学会関東支部第 352 回例会 海運クラブ(東京都千代田区) 2018 年 12 月 1 日
11. 堀田伸勝、齋藤詠子、**長堀正和**、大塚和朗、渡辺 守 【シンポジウム 1 :炎症性腸疾患診療における内視鏡の役割】潰瘍性大腸炎における 3 つの内視鏡スコアに基づいた再燃リスクの検討 第 107 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 シェーンバッハ・サボー (東京都千代田区) 2018 年 12 月 15 日
- H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)
1. 特許取得
なし
 2. 実用新案登録
なし
 3. その他
なし